



不整脈 特に心房細動について

（気を付けよう、脈の乱れ）

今回は不整脈についてお話しさせていただきます。不整脈は、その字のごとく脈が整っていない、すなわち脈の乱れのことです。脈の乱れにもいろいろあります。脈が飛ぶとか一瞬の動悸など経験されたことがある方もいらっしゃると思いますが、多くは期外収縮と言って、たちの良いものです。しかし不整脈の中にはたちの悪いものがあります。心室頻拍や心室細動は死に至る不整脈で、スポーツ中の突然死の原因になることがあります。非常に稀な不整脈です。

日本人に多くすぐには命にかかわることは少ないものの、脳梗塞などを発症するため、気を付けないといけないのが心房細動です。字のごとく心房が細かくブルブル震える状態となり、このため脈が乱れ、長い時間動悸の症状を伴ったり、脳梗塞や心不全の原因になったりします。この心房がブルブル震えた状態は、心電図をとるとよくわかります（図1）。先ほどもお話ししましたが、この状態ではたちまち命にかかわることはありませんが、脳梗塞や心不全の原因となることがあるため、適切な治療が必要になります。例えばかつて巨人軍の監督だった方も、心房細動から脳梗塞を発症され、後遺症として半身不随をきたされた方がいらつしやいます。

心房細動と診断された場合に、まず一番気を付けないといけないのが、脳塞栓症と呼ばれる重篤な脳梗塞です。心房細動になりますと、血栓と言って、血の塊が心房内にでき、それが心房からはがれて脳の血管に詰まった状態が脳塞栓症です。脳塞栓症による脳梗塞は重篤なことが多く、場合により命にかかわることもあります。かつて現役の総理大臣が脳塞栓症で亡くなられています。そのため治療としては、血栓ができないように抗凝固療法と言って、血をサラサラにする治療が必要になります。高齢の方や糖尿病・高血圧・心臓病などをお持ちの方、あるいは以前に脳梗塞の既往のある方は、是非この治療が必要になります。この治療によりケガをした時に若干血が止まりにくくなるということがあります。脳梗塞を起こすよりはいいのではないのでしょうか？では、心房細動になった時に、根本的に心房細動を治す方法はないでしょうか。

実は最近カテーテルアブレーションと言って、心房細動そのものを治してしまう治療法が行われるようになりました。全ての方に有効というわけではありませんが、一定の条件を満たす方には、有効な治療法です。図2にありますように、カテーテルを血管内に挿入し、心臓の心房細動を起こす部位を焼いて、心房細動を起こさないようにする手術です。場合にもよりますが、3時間程度の手術でできます。自分がこの治療法に適するかは、循環器内科の先生とよくご相談してください。心房細動の他の治療としては、動悸の症状の強い方には動悸を抑える薬を使いますし、心不全を伴うこともありますので、その場合は心不全の治療も併せて行います。動悸や脈の乱れを感じた場合にはまず原因の不整脈を診断することが大事です。

この心房細動の方は、常時心房細動の方と時々発作的に心房細動になる方がいらつしやいます。常時心房細動の方は約100万人いると推測されています。特に高齢の方、男性、高血圧や糖尿病をお持ちの方、心不全や心臓弁膜症をお持ちの方に多いと言われています。症状としては、動悸として感じることもあります。全く症状のないことも多く、最終的には心電図をとってはじめて心房細動と診断されることも多いので、症状がなくても注意が必要です。

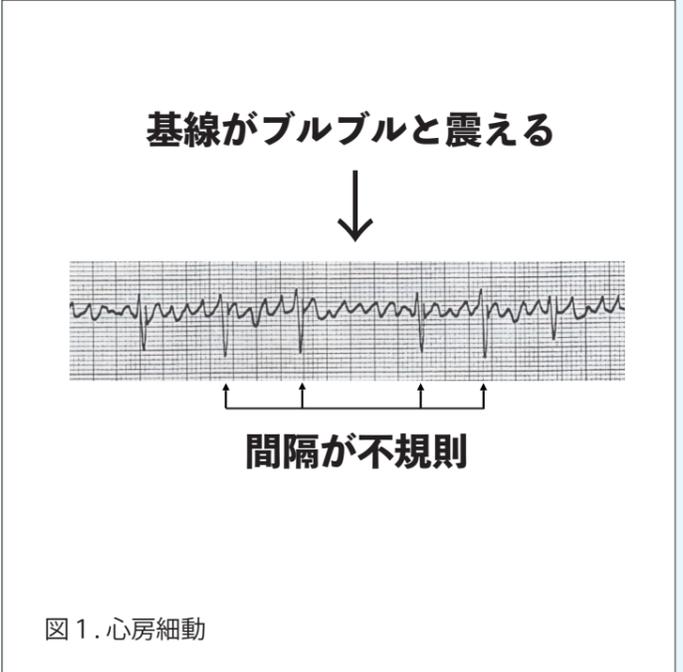


図1. 心房細動

心臓血管センター HP より

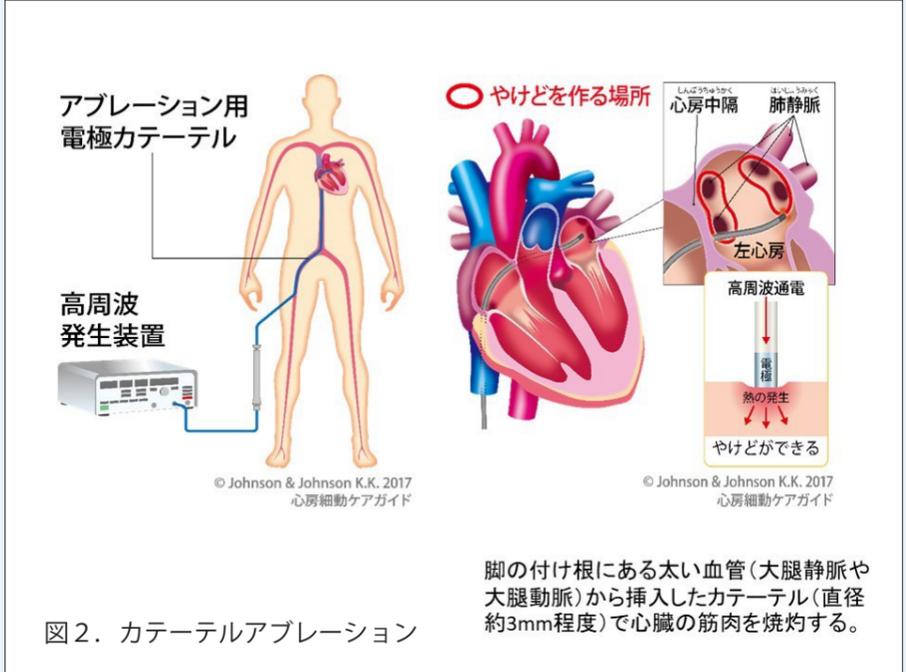


図2. カテーテルアブレーション

心臓血管センター HP より

心電図検査や心エコー検査、それでも不明な時はホルター心電図など、いろいろな検査法があり、いずれも当院でできる検査です。先にお話ししましたように、今は心房細動があってもいろいろな治療法があります。脳梗塞になってからでは手遅れですので、年に1回は心電図をとって、心房細動やその他の不整脈がないかチェックし、転ばぬ先の杖にしましょう。

文責 内科医 内本定彦



心臓・動脈硬化の検査について

心臓 ABI

動脈硬化が心臓の栄養血管に起こると、血管が狭くなる「狭心症」や血管が詰まる「心筋梗塞」が起こります。動脈硬化を簡単に発見できる検査が「血圧脈波検査 (ABI/CAVI)」です。この検査では、足の動脈の詰まりや、血管の硬さを調べることができます。



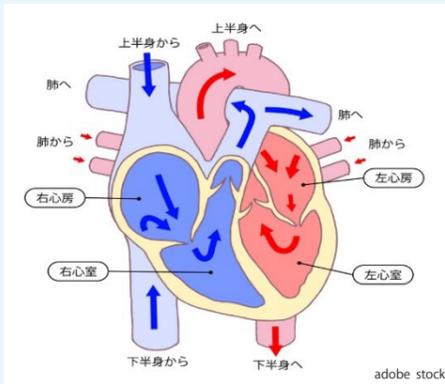
検査方法は仰向けに寝た状態で両手・両足首の血圧と脈波を測定します。血圧測定と同じ感覚でできる簡単な検査です。足の動脈が狭くなるとう血流が悪くなり、腕の血圧に比べて足首の血圧が低くなる為、血圧の比で足の動脈が詰まっているかを判断する**ABIは血管の詰まり**を調べます。

CAVIは血液が流れる時のポンプの内側の圧力(血圧)の変化をみて、血液を送り出すポンプ機能が十分に働いているか、つまり**血管の硬さを**調べます。



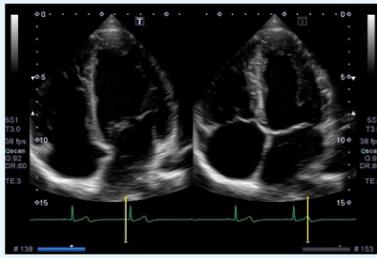
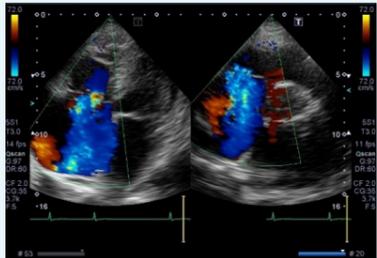
心臓超音波検査

心臓超音波(心エコー)検査とは、超音波を用いて心臓の状態を調べる検査です。人の耳では聞こえない高い周波数の音波(超音波)を体に当てて体の中の臓器を映し出します。体への負担は一切なく行えるので、安心な検査です。



心エコー検査では、心臓の機能や形態をリアルタイムに観察できます。

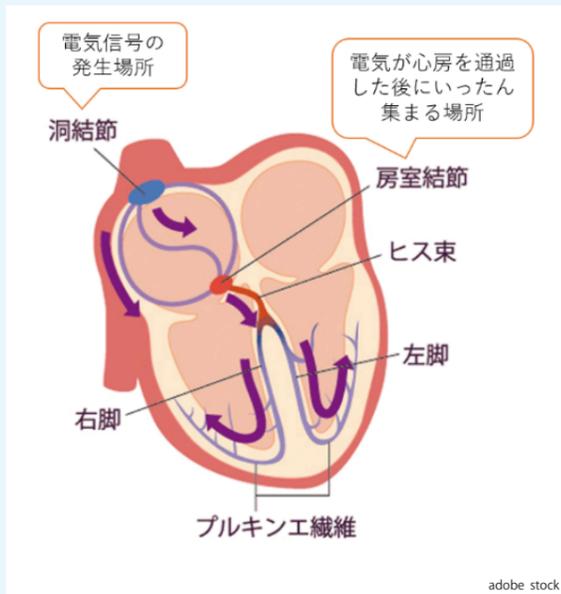
心臓は4つの部屋と、4つの弁で構成されており、これらの部屋の大きさや動き、また弁の動きを観察します。また血液の流れに色を付けて表示することで、血流の異常や弁の動きの異常を見ることができます。この検査で得られた情報は、心臓弁膜症や虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症など)、心筋症、心筋炎、心膜炎、先天性心疾患など様々な心臓疾患の診断に用いられます。



心電図について

心臓の規則的な動きは実は電気によって生み出されています。心臓は筋肉できており、その筋肉に微量な電気が流れて興奮し拍動が起こります。心電図とは、このような心臓の電氣的な活動を体表面に装着した電極でとらえ、グラフで記録することで不整脈や心肥大、虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症など)などの心疾患の診断と治療に役立つものです。

心電図検査は、健康診断や病院などで受けることができ、検査にかかる時間は5分程度です。ただし、心臓の病気が別の検査を行わないと診断できないものが多くあります。気になる症状があった時は、心電図検査の結果をふまえて次にどんな検査を行えばよいのかなどを検討していきます。



頸動脈エコー検査

頸動脈エコー検査では、首にある総頸動脈と内頸動脈、外頸動脈、椎骨動脈と呼ばれる4本の血管を観察します。

これらの血管は脳に血液を送る大切な血管です。動脈硬化によって血管が細くなったり詰まったりすると、脳梗塞などの重大な病気を引き起こします。

検査方法は、首にゼリーを塗り、プローブと呼ばれる超音波装置をあてて、血管を観察します。コレステロールなどが血管の壁にはりついてプラークと呼ばれるものが出来ていないか、また、血流の速さなどのくらいかなどを確認します。

超音波検査は痛みもなく、体への負担の少ない検査です。高血圧や糖尿病、脂質異常症など生活習慣病のある方は、定期的に検査を行いまししょう。

文責 臨床検査技師 一同

